

「お前なんかドイツ語勉強するより土方んとけへ行け。。
よっぽど勉強になるぞ」
師、種村季弘から送りこまれた
女子学生がアスベスト館で
見たものとは…

「ソフィの世界」「世界が100人の村だったら」など
ベストセラー作家が語る！！

アスベスト館の日常 思い出の土方巽

秋田から土方巽を偲ぶ
月例会
暗黒舞踏の夜
二十三日



日時:2020年1月25日(土)18:00~20:00

会場:にぎわい交流館3F

ミュージックホール① 入場料 1,200円

18:00 「病める舞姫」語りと踊り」

出演:神原ゆかり・浅野修一郎

18:30 「アスベスト館の日常・

思い出の土方巽」

講師:池田香代子

20:00 懇親会(参加料1,000円)会場4階和室

連絡 携帯 090-9033-8022 (米山)

Email:hijikata-akita@live.jp

主宰:NPO土方巽記念秋田舞踏会

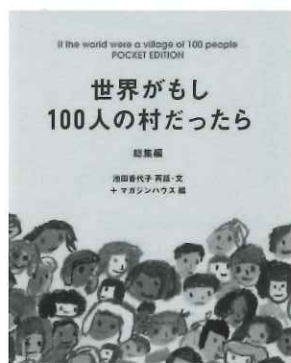


<https://www.facebook.com/hijikata.tatumi.akita/>

池田香代子講演会



池田は、1968年に東京都立大学に入学し、69年に都立大へ着任した種村季弘の下でドイツ語を学んでいたが、間もなく大学紛争によって大学がロックされ、種村宅で手伝いをしたり、種村に連れられて様々なところへ出かけるようになった。当時は「真面目な、四角四面の19歳の女の子」であり、土方についても関心がなかった。ところが種村から、大学よりも土方のところへ行く方が勉強になると言われ、アスベスト館で舞踏手たちの賄いや手伝い、土方の娘がらとべらの子守などをするようになった。「本当に才能も何も無い、紛れ込んだ女学生という感じ」と謙遜しつつ、刺激的で魅力的なアスベスト館での経験を思い出している。



講演「アスベスト館の日常・思い出の土方巽」 講師 池田香代子

2001年9月11日、アメリカで起こった大惨事。それを機にアメリカがアフガニスタンに侵攻したことを受けて、『世界がもし100人の村だったら』を出版し、人々の“平和を願う”意識を呼び起こし、ベストセラーとなる。その印税で「100人村基金」を立ち上げ、NGOや日本国内の難民申請者の支援を行っている。その他、『ソフィーの世界』をはじめとする翻訳家としても活躍する。地球環境、教育、共同参画社会、世界平和など、グローバルな視点から、講演や社会運動を展開している。

公演「病める舞姫14章」語りと踊り

朗読「病める舞姫」12章

語り人 NPO土方巽記念秋田舞踏会「病める舞姫」朗読班

「布海苔でも煮ているのか、ひさしぶりに土間の大釜に湯がたぎっていた。その釜の蓋をずらして、家の者がいないのをよい事に湯気のなかに顔を突っ込んで、いろんな煩いを忘れて寛ぐような事があった。このシンと冷えた冬の土間には茹だった蕎麦の匂いがしていた。」177P

この度朗読する12章は初冬の家の中で繰り上げられる生活と刻々と変化する少年の気持ちを克明に描写しています。大釜から立ち昇る湯気も軒先のつららもすべてが舞踏のモチーフです。さらにリアルな生活描写の中に伝統芸能の演題「牡丹灯笼」を彷彿とさせる文章がちりばめられています。…

汲めども尽きぬ土方巽文学の魅力、奥深さをご堪能下さい。



踊り人 モダンダンス・神原ゆかり

愛知県出身。バレリーナ、モダンダンサー。ゆかりバレエ主宰者。名古屋を拠点に大阪、東京、秋田など各地で活躍中。クラシックから、モダン、コンテンポラリーまで幅広いジャンルを踊る。近年は多分野の音楽家と即興コラボパフォーマンスもしている。愛知県犬山市の和風美術館にて「古典再生」「陰翳礼讃」「狭間」と題し、一週間の即興ソロダンスパフォーマンスを三年間行う。水戸市常盤神社、佐渡島大膳神社能舞台にて奉納舞する。大阪市座・丸条(現信天翁)に毎年ゲストとして即興イベントに出演。アジアトライ秋田千秋芸術祭2018・2019に連続出演。



三味線伴奏・浅野修一郎

民謡一家に育つ。津軽民謡三味線、福士豊勝師匠より指導を受ける。

秋田民謡全国大会三味線の部、優秀賞を受賞。平成23年、日本民謡梅若流名取を取得する。アジアトライAKITA千秋芸術祭に2018年・2019年連続出演

主催：NPO土方巽記念秋田舞踏会 秋田市泉中央1-11-4 ☎090-9033-8022